

和田塾など西部3社統合

英語に力 大学入試改革照準

県西部を地盤にする学習塾の和田塾(浜松市中区、大場規之社長)と名学館を運営するライトハウスコミュニケーション(掛川市、松下一徳社長)、総合英語教室のオブネット英語学院(磐田市、高塚勝久社長)の3社が来年1月1日付で経営統合し、新会社「ライトハウスエデュケーション」を発足させる。今後の大学入試改革などを見据えて各社のノウハウを融合させた総合教育サービスを提供し、事業規模の拡大を図る。

新会社は資本金7千万円、従業員数約100人。社長には松下氏が就任し、大場氏と高塚氏が会長として補佐する。教室など事業所は16拠点で、生徒数は幼児から高校生まで1400人規模となる。各社のブランドとなっている「和田塾」「名学館」「オブネット英語学院」の教室名称は引き続き使用する。和田塾は完全個人指導を強みに、留学生支援も手掛ける。名学館は総合個別指導を前面に

掲げ、通信制高校学習センターも運営。オブネットは英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)の育成を売りにし、日常のコミュニケーションを英語で行う保育園も2カ所で展開する。

新会社が特に重視しているのが英語教育のサービス。2020年からの大学入試改革で英語は4技能が求められるようになる見通しで、これをにらんだ指導態勢を整える。松下氏は「3社の得

意分野を生かし、国には世界で活躍できる教育改革に対応できるような人材育成を目指す教育をいち早く目指したい」と話している。最終的

経済 しずおか